

河北新報社のインターンシップについて

大学生に新聞社の仕事に興味を持ってもらおうと、河北新報社では2025年、編集部門・ビジネス総合部門でインターンシップを実施しました。

編集部門は8、9月の5日間（1期）と11、12月4日間（2期）の2回開催。約40人が新聞記事の書き方や取材の仕方を学んだ後、取材や紙面制作を体験する、実践的なプログラムでした。



1期は、定禅寺通で交流拠点を運営する会社「雑談会議」（仙台市青葉区）を訪問し、事業内容やイベントなどについて取材し、1人一つの記事を書きあげました。記事は記者経験者が添削し、原稿についてアドバイス。学生同士も積極的に意見を出し合いました。その後は5つの班に分かれ、紙面制作システムを使って特別号外を制作。完成した紙面を見た学生たちは充実した表情を見せていました。このほか、防災ワークショップや「過疎ビジネス」（集英社新書）を執筆した編集部の横山勲記者からの座学もありました。



2期のメンバーは荒浜小震災遺構（仙台市若林区）、トヨタ自動車東日本（大衡村）の2カ所で取材。荒浜小では訪問者にも積極的に声をかけ、遺構を訪れた理由なども伺いました。トヨタ自動車東日本では、シエンタなどコンパクト車の組立工場など見学したほか、「移動」を軸とした地域支援活動についてもお話を伺いました。





取材後は、記事執筆に挑戦。学生が書き上げた記事はグループで講評し合い、さらに河北新報社の記者経験者が添削しました。最後は書いた記事に見出しをつけ、学生一人一人が模擬新聞を制作。制作にあたっては、宮城県内の小中学生向け学習応援サイト「ミヤシル」を活用し、新聞社の新しい取り組みについて理解を深めるとともに、新聞制作の一連の流れを体験しました。

このほか、東日本大震災と河北新報社の取り組みの座学や、先輩記者との座談会で、社員と交流しました。

ビジネス総合部門は8月に5日間のインターンを実施。営業部、販売部、事業部それぞれの仕事について講義を受けたほか、主催事業の見学と就業体験や、新聞販売店を訪問し、夕刊の配達までの流れを見学しました。

また、実際の広告企画の企画書を読み込み、仮想のクライアントに企画を売り込む「模擬営業」にも挑戦してもらいました。新聞社のビジネス部門がどんな仕事をしているかはイメージがわきにくいいため、業務が理解できるプログラムを盛り込みました。



【インターンは2026年も予定】

今年も編集部門・ビジネス総合部門でインターンを予定しています。詳細が決まりましたら、採用HPやマイナビなどでご案内します。

問い合わせは河北新報社人事部（kahoku-saiyo@po.kahoku.co.jp）へ。